

<p>a 学校教育目標</p> <p>「学び つながり 挑戦する子ども」 —地域を支え 世界で活躍する姿をめざして—</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>【ミッション】(自校の使命)郷土に誇りを持ち、自ら考え、判断し、決断して行動できる児童の育成</p> <p>【ビジョン】(自校の将来像)</p> <p>○互いに学び合い挑戦し続ける学校 確かな学力・豊かな人間力を育む学校 地域・郷土を愛する心を育てる学校</p> <p>児童・保護者・地域から信頼される学校</p> <p>○(い)意欲をもって学び合う子(と)友達へポジティブに関わる子 (さ)さわやかな挨拶と返事をする子(き)決めたことを最後まで粘り強くやりきる子</p> <p>○指導力向上・自己成長に努める教職員 徹底・協働して組織的に動く教職員 児童・保護者・地域から信頼される教職員</p>
--	------------------------------	--

評価計画				自己評価					改善方策		学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	担当	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	主体的・自律的に学び合う児童の育成	基礎・基本の学力定着	・全国学力学習状況調査・標準学力調査(国語科・算数科・理科)で学級平均値が全国平均を上回る	100%	教育研究部	国語110% 算数101% 理科110%	標準学力調査 全年100%	100%	A	・標準学力調査はすべての学年において、全国平均値を上回った。特に基礎基本の部分での得点が高い。活用部分に課題があるため、思考力育成の指導を行っていきたい。 ・学期末テストの到達率は、国語が85%、思80%、算数88%、思70%で、国語は目標値を達成したが、算数の思考・判断は達成しなかった。問われている事柄を正確に把握する力や、問題を解くために既習事項を活用する力が不足していることが原因と考えられる。 ・漢字検定で90点以上の児童の割合は、前期よりも高くなったが、目標値は達成できなかった。2回とも目標値を達成した学年は、2クラスに増えており、残りの4クラスは、2学期の1回目よりも2回目の点数の方が高くなっていったため、結果は前期と比較して改善していることが分かる。 ・算数検定は、目標達成にほど近い結果となった。全問正解でない次の級に挑戦することができないルールや、年間の実回数が少ないわりにはプリント数が多かったことが、原因と考えられる。	・標準学力調査については、活用部分に課題があるため、フォローアップシートを始め、活用問題を実際に合わせて実施していく。 ・学期末テストについては、算数の思考力・判断力を養うために、前時までの既習問題を導入の場面で用いる取り組みを続ける。問われている事柄を正確に把握する力を養うためには、図を式にしたり、式を言葉で表したりする活動を行っていく。 ・漢字検定は、90点以上が目標であることに加え、以前より平均点が上がっていることを児童に周知し、やる気を持続させたい。漢字が苦手な児童については、問題数や書く漢字の数を減らすなど、個に合わせたワークシートを作り、選択して取り組むことができるようにする。 ・算数検定は、算数が苦手な児童にとってモチベーションが上がるように、問題内容の厳選と問題数の削減等を行う。また、児童の選択が多様になるように問題を選び、自分で解き進めていけるようにしていく。	5	0	0	・基礎基本の学力定着のため取り組まれている方策はどれをとっていても重要だと思ふ。 ・特に読書の環境作りは急ぎ進めてほしい。本を読むことは、人生を豊かにする。ぜひ、読書を習慣化させてほしい。 ・R80については、かなり浸透してきているように思う。 ・学力面においては、先生たちの努力が伝わり、児童はよく頑張っている。 ・個に対する理解力を身に付ける工夫が実践されている。
			・学期末テスト(国語科・算数科)で、知識・技能、思考・判断の平均が80%以上の児童の割合	80%		国語 76% 算数 84%	国語 83% 算数 79%	国語 104% 算数 99%	B						
			・漢字検定で90点以上の児童の割合	80%		72%	77%	96%	B						
			・算数検定で該当学年の内容を達成した児童の割合	80%		55.0%	55%	C							
			・自分のことアンケートで肯定的評価をした児童の割合 「(20)算数の授業は、よく分かる」	90%		88%	89%	99%	B	(20)89%(そう思う49%、少し思う40%) (21)89%(そう思う60%、少し思う29%) (24)86%(そう思う40%、少し思う46%) (29)86%(そう思う50%、少し思う36%)					
			「(21)算数の授業で分かったことをR80でふり返ることができる」	90%		77%	89%	99%	B	・どの項目も、目標値には達成しなかった。前期から数値がよかった項目は、(20)、(21)、(29)の3つで、特に上がったのは、(21)である。知識・技能が上がったことにより、授業が分かるようになったと感じる児童が増えたことと考える。また、振り返りの場面では、児童がR80を書くことに慣れ、内容も充実して振り返ることに達成感を感じる児童が増えたと考えられる。(24)の結果からは、主に「練習合いの場」において、自分と友達の考えをつなげて考えることに課題があることが分かる。					
・読書環境づくりの推進	80%	72%	77%	96%	B	・自分と友達の考えをつなげて考えることの課題解決の方法として、授業の「練習合いの場」において、本時の学習と既習事項とのつながりを考えているような方法を考えたりする力を伸ばすため、教師が行う手立てや、児童への働きかけの工夫を研究していく。具体的には、既習と本時の課題とのつながりを児童が見つけられるように提示の工夫をしたり、児童の意見交流の場を意図的に設定したりする。また、児童が自分の考えを言葉や図で、論理的に説明する場(ペア学習やグループ学習)を設け、表現力の向上を図る。説明や表現の場面では、話型を指導したり、児童の意見発表を活性化させる発問を工夫したりして、意見の練習合いの場面で児童の表現力を育成していく。									
豊かな心と健やかな体の育成	特別支援教育とレジリエンスを根底とした豊かな人間力と健やかな体の育成	つながる集団づくりの推進	・自分のことアンケートで肯定的評価をした児童の割合 「(2)みんなの役に立っていると思う」	90%	生徒指導部	77%	78%	86%	B	・「(3)困っている人に声をかけることができる」については目標を達成することができた。「(2)みんなの役に立っている」については目標達成はできなかったがわずかに数値が上がった。(9)つらいことがあっても気分転換がうまくできる」については前回同様目標を達成することができなかった。役に立っている場面や気分転換の仕方について具体的に示していく必要がある。	・SSTやポジティブな声かけについて考えるなどの活動を授業の中に取り入れていき、関わり合いや学び合う場面で役立てるように指導していく。 ・自己評価、他者評価の場面を設定し、授業や特別活動で行っている活動を、自己肯定感や他者の肯定的な評価の向上につなげていけるような指導を行う。 ・自分の成功体験や友達からのポジティブな声かけを自己評価につなげるように教員が働きかけ、価値づけしていく。	5	0	0	・さわやかな挨拶、ポジティブな関わり、アサーションコントロール等にSSTは欠かせない。人との上手な接し方、気持ちの伝え方を身に付けることで、生活の質を高めることができると思う。 ・結果だけにとらわれず、そこに至るまでの児童の頑張りの過程を重視した評価ができるような指導を望む。 ・児童同士のコミュニケーションがとれている。 ・目標を設定し粘り強く、成し遂げるように指導している事が良い。
			「(3)困っている人に声をかけることができる」	85%		89%	92%	108%	A						
			「(9)つらいことがあっても気分転換がうまくできる」	85%		76%	76%	89%	B						
			・自分のことアンケートで肯定的評価をした児童の割合 「(5)一度決めたことは難しくて最後までやっている」	85%		85%	86%	101%	A	・「(5)一度決めたことは難しくて最後までやっている」、「(7)いろいろなことにチャレンジするのが好きだ」、「(10)自分の夢や目標のために努力している」については目標を達成することができた。しかし、「(8)ねばり強い人間だと思う」については肯定的評価77%で数値が下がった。様々な取組の取組中、事後などに自己評価、他者評価を取り入れ価値づけを行う必要がある。					
			「(7)いろいろなことにチャレンジするのが好きだ」	85%		89%	88%	103%	A						
			「(8)ねばり強い人間だと思う」	85%		80%	77%	91%	B						
体づくり・食育の推進	体づくり・食育の推進	体づくり・食育の推進	・自分のことアンケートで肯定的評価をした児童の割合 「(16)体を動かすことが好き」	90%	保健体育部	90%	86%	96%	B	・体を動かすことが好きの問いに対して86%の児童が、目標を持って運動に取り組んでいるの問いに対して84%の児童が肯定的な思いをもっていた。Jタイムが減ったことにより、運動する機会や外遊びに対するモチベーションが下がったと思われる。今後は体育科の授業の中で、児童が夢中になって活動できる運動をして運動量を確保する。	・委員会活動や体育的な取組について、最中や事後に評価場面を入れ、価値づけを行う。 ・児童の主体的な体育的活動を意図的に設定し、委員会などで、児童が自分たちで考えたことが学校全体の取組になるように企画・計画を行う。 ・体力向上に必要な活動を、1年間を見通してバランスよく朝会や体育科に取り入れ、児童が目標をもって体育に取り組んだり、楽しく体を動かす中で自然と体力が向上したりするような意図的な活動を仕組んでいく。 ・食育については、今後さらなる児童の食の知識を増やし、児童自身が栄養バランスや健康について考えることができるようにする。具体的には、ランチルーム給食や保健や家庭科の教科指導の中で、食べることの大切さや栄養バランスを考えた食事で自分が健康になっていくことを意識させる指導を栄養教諭と連携しながら行っていく。	5	0	0	
			「(17)目標を持って運動に取り組んでいる」	80%		86%	84%	105%	A						
			「(18)栄養のバランスを考えて給食を食べている」	80%		80%	88%	110%	A						
			「(19)苦手なもの、少しでも食べている」	80%		84%	86%	108%	A						
			・食育のバランスを考えて給食を食べているの問いに対して88%の児童が、苦手なものも少しでも食べているの問いに対して86%の児童が肯定的な思いをもっていた。ランチルーム給食で、その日の食材の旬や産地、含まれる栄養素等について指導し、児童が給食に興味関心をもち栄養バランスを考えて食べるができるよう取り組んだり、食べきりウィークを継続して実施することで、完食のモチベーションをあげたりすることができた。引き続き食育指導や、喫食時の巡回指導を行う。												
			・食育のバランスを考えて給食を食べている」	80%		80%	88%	110%	A						
信頼される学校	保護者・地域と共に成長でき、児童が安心して学べる学校づくりの推進	コミュニティ・スクールの基盤づくり	・自分のことアンケートで肯定的評価をした児童の割合 「(11)糸崎の地域が好きだ」	95%	教務部・総務部	92%	93%	98%	A	・コミュニティ・スクール(CS)制度を活用した学校の取組とCS団体の協力により、教育活動の充実を図ることができた。また、地域の人達と関わる機会を通し、地域の人の思いや優しさに触れることができたため、地域の方々への感謝や地域への愛着心も高まっている。	・本年度に行った活動を振り返り、コミュニティ・スクールの活用の仕方などをコミュニティ・スクールの構成員だけではなく、教職員とともに、ニーズに合った活動方法を考えていく。 ・地域の人材や資源を発掘し、授業等で活用できるように、カリキュラムを工夫する必要がある。 ・今後も地域に学校の情報を積極的に発信し、関わりが増えるような活動を行っていく。	5	0	0	・地域の方との関係が良好である。 ・CSの目的や取組をたくさんの人に周知するため、地道な広報活動、情報発信の強化、CS初年度の反省をもとに改善させた活動ができるようにしていきたい。 ・職員室の雰囲気がよく、お互いに切磋琢磨している様子が伺えます。チーム糸崎小として、CSがその一部を担っているとして嬉しい。 ・地域の人たちが授業に参加して活動する事は色々な意味で良い刺激になっている。
			「(12)糸崎のよいところを言うことができる」	90%		88%	90%	100%	A						
			「(13)地域の人たちと関わるのは楽しい」	90%		86%	90%	100%	A						
			・地域参加のある学校行事を開催した回数	10回以上		9月まで7回	10回	100%	A						
			・地域への情報発信の回覧(お便りや案内)をした回数	10回以上		9月まで7回	12回	100%	A						
			・HPの更新回数	年5回以上		9月まで4回	8回	100%	A						
心理的安全性が高い職場づくり	心理的安全性が高い職場づくり	心理的安全性が高い職場づくり	職員アンケートで肯定的評価をした職員の割合 「(1)職場の中で、自分が努力していることについて認められていると感じる。」	90%	100%	100%	111%	A	・職員室における心理的安全性が高まるよう、互いのがんばりや思いを尊重し合う雰囲気づくりに努めたこと、また、得意分野を生かした研修を実施し、学び合ったことが成果につながった。 ・チーム糸崎小で、互いに支え合う体制を整えたり、ケース会議を実施したりして担任任せにならない仕組みをつくったが、業務の偏りについては課題が残る。 ・組織的な業務の遂行をめざして、気づいたことを言い合える雰囲気を作るために、その都度言い合えるように、場を設けた。	・今後も互いのもつよきや強みを生かして、職員全体の力量や能力が向上できるよう取り組む。また、風通しのよい職場になるよう、様子を気にかけ合い、声をかけ合いながら助け合っていく。	5	0	0		
			「(2)『糸小学びの森』は自分の成長に役に立っている。」	90%	100%	92%	102%	A							
			「(3)チーム糸崎小で業務を遂行することができている。」	90%	85%	100%	111%	A							

[j]:自己評価 評価]

[l]:学校関係者評価 評価]

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:分からない。